

■ 士師の時代

士師時代のイスラエルには、靈的指導者も王様もいませんでした。イスラエルの民はそれぞれが自分の目に良いと見えることを行っていました。民の中には間違っただ判断をし、悪を行う人々が多くいました。このような時代に民が罪の道を歩むと、神様は罰を与えることで警告しました。そして、民が悔い改め、救いを祈り求めると、神様は士師という人を、民の中から起こしました。神様は、士師を用いてイスラエルを救いへと導きました。しかし、士師が死に、世代が変わると、民は再び罪を犯すようになりました。士師時代にはこのような、悪循環が繰り返されていました。士師は、別の呼び方でさばきつかさと言います。

■ 登場人物

ナオミ：イスラエルのユダのベツレヘム出身の人です。10年前、夫と2人の息子と一緒に外国のモアブに移住しました。しかし、夫と2人の息子が先に死に、今は2人の外国人嫁と一緒にモアブに住んでいます。ナオミは、ある事情で自分の故郷、ユダのベツレヘムに帰ることにしました。

オルパ：ナオミの嫁の一人です。ベツレヘムに帰る姑(しゅうとめ)ナオミに別れを告げ、モアブの母の家に帰る事にしました。

ルツ：ナオミのもう一人の嫁であり、オルパの兄嫁です。ベツレヘムに帰る姑 - ナオミにすがりついて「私も連れて行って下さい」と懇願しました。

■ メッセージのポイント

- (1) ナオミの一家は、安らかな暮らしを求めて、外国のモアブに移住しました。しかし、神様が王として治めている国 - イスラエルを離れていることが、どれ程辛くてむなしいものであるかを経験しました。それから、ナオミはイスラエルに帰ることにしました。しかし、2人の嫁たちには、モアブの母の家に帰ることを勧めています。
- (2) オルパは、ナオミが祈ってくれた現実的な祝福を受け入れました。それは、モアブの母の家に帰り、慰めを受け、安心して再出発の準備をすることでした。
- (3) ルツは、ナオミにすがりついて離れませんでした。ナオミと一緒に、真の神様がおられる神の家に入ることを望みました。ルツは、自分の民と母の家を離れると決心しました。